

## (2) 第54回 全国小学校家庭科教育研究会全国大会（石川大会）参加報告

### ア 大会主題及び研究主題

大会主題：未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育

研究主題：豊かな生活を創り出す子をめざして

～ つながろう家庭・地域、高めよう実践力 ～

### イ 石川県の取組

石川県では、「視点① 生活を工夫し、実践力を高める指導計画の工夫」「視点② 主体的対話的で深い学びにつながる学習指導の工夫」「視点③ 生活を工夫し、実践力を高める評価の工夫」「視点④ 実践につながる家庭・地域との連携の工夫」という4つの視点で、研究に取り組んでいた。

#### 【視点① 生活を工夫し、実践力を高める指導計画の工夫】

- 基礎的・基本的な知識及び技能を明確にした題材配列表  
重点的に指導するものを明確にした上で、扱う教材などを工夫し、段階的に繰り返し指導することができるよう、内容ごとに「題材配列表」を作成していた。重点的に扱う事項は◎で明記し、指導項目に示された基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることができるような工夫がなされていた。
- 他教科との関連を図った指導計画の工夫  
学習全体の見通しをもって指導できるよう、「他教科等・中学校との関連表」が作成されていた。この表を作成することで、題材が関連する学年及び教科等が明らかになり、これまでの学習を踏まえた児童の思考の流れを予想することができていた。
- 小中5年間を見通した指導計画の工夫  
学習を系統的、計画的に展開するために、内容ごとに小中5年間を見通した家庭科の年間指導計画を作成していた。

#### 【視点② 主体的、対話的で深い学びにつながる学習指導の工夫】

- 問題解決的な学習の工夫  
題材の流れを「つかむ」「さぐる」「深める」「生かす」の4段階に分け「学びのプロセス」を図式化し学習指導を工夫していた。さらに「学びのプロセス」をもとに、「かがやきスタイル」という題材構想図を作成し見通しをもって指導に当たっていた。
- 実感を伴った理解や思考を深める指導の充実  
「住まい方」の学習では、観察や実験を取り入れ、実感を伴った理解ができるよう工夫していた。
- ICTの効果的な活用  
洗濯の仕方や調理の仕方などをタブレットで動画撮影していた。映像を根拠として話し合うことで、思考の可視化や情報の共有化が容易に行え、主体的な学習をするのに効果があった。
- 学習形態・指導体制の工夫  
ペアやグループなど学習形態を変えたり、栄養教諭・家庭科専科教員とのチームティーチングや少人数指導を行ったりして、学習展開に合った工夫が行われていた。

#### 【視点③ 生活を工夫し、実践力を高める評価の工夫】

- 思考の過程を把握するワークシートの工夫  
児童の考えや工夫を図や言葉でまとめたり、振り返りや見直しを記録したりするワークシートを工夫し、児童一人一人の思考の深まりを把握できるようにしていた。
- 新たな実践課題による評価  
児童に授業で付けさせたい力が付いたかどうかを見取るために、新たな実践課題を設定し、各自に課題解決をさせていた。児童の実践力を高めるのに効果的であった。

#### 【視点④ 実践につながる家庭・地域との連携の工夫】

##### ○ 家庭・地域の理解を深める情報発信

学級通信や家庭科だよりで、学習のねらいや内容についての情報を保護者に提供して理解を求めたことで、意欲的な家庭実践につなげることができていた。また、学校で学んだことをチラシや壁新聞にまとめ、地域の回覧板にのせたり市役所に掲示してもらったりしていた。児童は自分たちの学びがよりよい社会の実現につながることを実感することができていた。

##### ○ 地域人材の活用・地域教材の開発

地域で活躍する人材をゲストティチャーとして授業に招いたり、ゆで野菜の調理実習で地域の産物（金時草）を活用したりしていた。

#### ウ 研究発表

全国6地区から、次のような研究発表があった。

徳島県 自分で買い物をする機会が少なく、物や金銭の使い方への関心が低いという実態から、買い物実習と調理実習、さらに総合的な学習の時間を関連させた指導計画を作成していた。調理実習へ向けて買い物シミュレーションを取り入れたり、買い物後の自己評価をレーダーチャートで行ったりするなどの工夫が見られた。

鹿児島県 授業には意欲的に取り組むが、日常生活での実践につながらないという課題があった。家族を意識した追究課題を設定したり、家庭で実践したことを報告し合う場を設けたりするなど、家庭生活と関連を図った問題解決的な学習を工夫していた。

東京都 「五大栄養素の種類と働き」の系統的な指導方法と、家庭学習で実践する力を育むための指導計画や学習活動の工夫について研究を進めていた。「冷蔵庫ゲーム」「栄養素ハンドブック」「オリジナルレシピ集」など、栄養素についての学習内容の定着を図る教具・教材が開発され、それらを活用することで、児童の意欲が高まり、知識・理解の定着につながっていた。

福島県 学習活動に沿った子どもの学びの過程を想定して指導に当たったり、題材に関するイメージマップを全員で作成したりすることを通して、児童が問題解決への見通しをもって活動することができていた。また、家庭科チャレンジシートを活用し、家庭での実践が促されていた。

兵庫県 ICT機器や発表ボードを活用し、自他の意見を交流し合う言語活動の充実を目指していた。評価については、活動ごとにその時の気持ちや考えを記録したことで、児童が自らの学びを振り返るのに役立っていた。また、題材を通じた児童の変容を見取るにも、効果が上がっていた。

茨城県 自分の成長や周囲との関わりを視覚的に捉えることができるワークシートを作成し、2年間継続して活用していた。またICTを活用した交流活動の充実を図っていた。「話し合いナビ」のソフトを活用し、児童同士の意見の交流に役立っていた。

#### エ 全体指導

文部科学省初等中等教育局教育課程課 筒井恭子教科調査官による全体指導が行われた。

石川県の取組における成果として、「他教科との関連を図った指導計画の工夫」「小中5年間を見通した指導計画の工夫」「題材構想図『かがやきスタイル』の作成」「ICTの活用」「実践力を高める評価方法の工夫」「家庭・地域との連携の工夫」の取組が挙げられた。特に、5年間を見通した指導計画、かがやきスタイル作成による問題解決学習の取組、自分の成長を自覚することができるワークシートの活用は、児童が自己の成長を自覚できるよう考えられた実践であり、効果的であると述べられた。

学習指導要領改訂については、家庭科で学んだ知識及び技能が、生きて働く力となるような授業づくりをしていくこと、また、見方・考え方を働かせて、主体的・対話的な深い学びを目指すことが重要であると述べられた。さらに、全面実施に向けて、小中5年間を見通した指導計画を立てるカリキュラム・マネジメントの実現を目指すことが大切だとして指導いただいた。